

研究機関名：東北大学

受付番号：	2012-1-214
研究課題名	胆道閉鎖症の手術時所見と臨床経過との関連に関する後方視的検討
研究期間	西暦 2012年 9月（倫理委員会承認後）～ 2014年 3月
対象材料	<input checked="" type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名：肝臓） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（診療録、レントゲン写真）
上記材料の採取期間	西暦 2007年 4月～ 2012年 8月
意義、目的	胆道閉鎖症の治療にはまず肝門部空腸吻合術を行うがその治療成績は、病型にある程度依存していることが、これまでのデータから示されている。 しかしこの分類の問題点として、分類が複雑であることや、実際の臨床像にそぐわない点があることなどが以前より指摘されている。 この問題を解決することは、胆道閉鎖症の治療成績向上には不可欠である。
方法	対象は胆道閉鎖症全国登録に登録されている症例で、尚且つ術中造影で肝内胆管の造影が可能である病型（基本病型 I 型および II 型）の 349 例である。うち東北大学の対象症例は 22 例である。 手術時の外観、手術時の肝生検所見、術中造影所見およびその後の臨床データ（調査時の生死、肝移植の有無、肝機能障害の有無、胆管炎発症頻度、門脈圧亢進症の有無や程度など）についてである。 集計したデータを解析することで、現在の病型分類と今回の集計したデータとの関連、相関を検討し、分類の妥当性や問題点を抽出検討する。
問い合わせ・苦情等の窓口	東北大学病院 小児外科 佐々木英之 980-8574 仙台市青葉区星陵町 1-1 電話 022-717-7237